

日本経営システム学会 学会誌原著執筆細則

(目 的)

第1条 本細則は日本経営システム学会誌の原稿執筆の方法について定める。

(原稿の言語)

第2条 原稿は日本語または英語のいずれかで記述する。

(原稿の体裁)

第3条 原稿は Word あるいは LaTeX を使用し、A4 用紙に横書きで記述する。

2. 原稿の分量は 6 頁を標準とする。
3. 文字のフォントは 10pt, 数式のフォントは 12pt 以下を用いる。
4. 原稿を Word で作成する場合は、本学会ホームページ上の原稿作成フォームに基づき記述する。
5. 原稿を LaTeX で作成する場合は、本学会ホームページ上に提供されているテンプレートによる。

(原稿の構成)

第4条 日本語で原稿を記述する場合には、和文表題、和文著者名、和文要旨、英文表題、英文著者名、英文要旨、英文キーワード、本文、注、参考文献をこの順に記述する。

2. 英語で原稿を記述する場合には、英文表題、英文著者名、英文要旨、英文キーワード、本文、注、参考文献をこの順に記述する。

(表題および執筆者名)

第5条 原稿には記述内容に適した表題を付ける。

2. 表題に副題を付ける場合には、主題の下に記述する。
3. 執筆者名には原則としてその所属（企業または大学等）を先頭に付ける。

(要 旨)

第6条 和文要旨は 400 字以内、英文要旨は 100 語以内を原則とする。

2. 要旨は 1 段で記述する。和文原稿の場合は、1 行あたり 48 文字とする。

(本 文)

第7条 本文は 2 段で記述する。

2. 和文原稿の 1 頁当たりの字数を 1748 字 (23 字×38 行×2 段) とする。英文原稿の場合も 1 頁当たり 38 行を原則とする。
3. 見出し記号
見出し記号には次のものを使用し、原則としてそれぞれ 1 行に書く。大見出しの上下は 1 行ずつ、中見出しの上は 1 行の行間をあける。

1. (大見出し)

1.1 (中見出し)

(1) (小見出し)

① (項目)

4. 文体・記号など

(1) 日本語原稿

- ① 文体は「である」調とし，現代仮名使いによる。また，漢字については学術用語や固有名詞を除き常用漢字を用いる。
- ② 文字のフォントは明朝または P 明朝にする。また，数字は Century を用いる（例：2012 年には会員数 700 人に達する）。
- ③ パラグラフの先頭は全角 1 文字を字下げする。
- ④ 句読点は全角コンマ「，」，終了点は全角ピリオド「。」を用いる。

(2) 英語原稿

- ① 文字および数字のフォントは，原則として Century または Times New Roman を使う。
- ② パラグラフの先頭は 2 文字分の字下げを行う。ただし，各セクションの先頭のパラグラフでは字下げは行わない。
- ③ その他，英語表記の標準的な体裁に準拠する。

5. 数式

- (1) 数式のフォントは基本的に Times New Roman を使う。
- (2) 本文の行中に数式を記述する場合は，数式の前後に半角ずつのスペースを設ける。長い数式は 1 行に記述し中央揃えとする。
- (3) 1 行に記述した数式には原則として式番号を付ける。式番号は，通し番号(1),(2),(3),…として，式の右側に置く。行中に記述した数式には式番号は付けない。

6. 図，表，図表

- (1) 本文には図，表を置くことができる。
- (2) 図や表は，原稿用紙に直接印刷するか，あるいは，刷り上がりサイズのを貼り付ける。もしくは，図や表の原紙は別紙に書き，本文中にそれらの図や表の位置にスペースを設け，原紙との関連を明確にする。
- (3) 図や表には，それぞれ図 1，図 2，…，表 1，表 2，…，のように通し番号を付け，その右側に 1 文字あけて図題や表題を記入する。
- (4) 図と表を合わせたものとして，図表とすることができる。図表の番号付けや図表題は図や表の場合の表記方法に準じる。
- (5) 図番と図題は図の下に，表番と表題は表の上に，図表番と図表題は図表の上に記入する。
- (6) 図，表，図表は本文中にて引用する。引用は図番，表番，図表番によって行う。

例：経営システム学の学問体系は図 8 に示すように・・・

(注の記述)

第8条 注の内容については、本条第3項のように論文末尾にまとめて記述する。注の番号は、(注1),(注2),…のように論文中で通し番号とする。なお、注と本文の間には1行の空白行をあける。

2. 注は本文中で次のように表記する。

例：・・・の場合(注1)について計算すると・・・

3. 注の記述例

注

(1) 注1の内容

(2) 注2の内容

(参考文献の記述)

第9条 参考文献は、注の後に、本条第6項に示す様式でまとめて記述する。参考文献の番号は、[1], [2], [3]…のように論文中で通し番号とする。なお、注と参考文献の間には1行の空白行を設ける。

2. 参考文献は本文中で次のように指定する。

例：因子分析における因子負荷量の計算法のひとつに主因子法がある[5]。

3. 同じ参考文献について箇所を変えて引用する場合、和文は「前掲書」、英文は「*op.cit.*」または「*Ibid.*」を使用する。

4. Web上の資料を引用する場合は、そのURLとアクセス日を明記する。

5. 参考文献の各項目の区切り記号は、半角コンマ「,」または半角コンマ+半角空白「, 」とする。また著者名の後の区切り記号は全角コロン「:」とする。

6. 参考文献の記述例

参考文献

[1] 経営大輔, 経済太郎: 経営システム学の課題, 日本経営システム学会誌, Vol.32, No.1, pp. 28-35, 2015

[2] 日本経営システム学会編: 経営システム学への招待, pp. 1-11, 日本評論社, 2011

[3] 前掲書[2], pp.33-38

[4] H. Lee, V.Padmanabhan and S.Whang: Information Distortion in a Supply Chain: The Bullwhip Effect, *Management Science*, Vol.43, No.4, pp.546-558,1997

[5] T.W.Anderson: An Introduction to Multivariate Statistical Analysis, John Wiley & Sons,pp.557-563, 1971

[6] *Ibid.*, pp.570-574

[7] <http://www.jams-web.jp/> (2012年12月5日)

(投稿原稿の提出)

第10条 別紙の投稿申込書、正原稿(図表の原本を含む)1部を学会誌編集委員会に提出する。

(最終原稿の提出と校正)

第 11 条 投稿論文が受理された場合には、正原稿（図表の原本を含む）1 部と原稿ファイルを学会編集委員会に提出する。

2. 学会誌編集委員会が提出された最終原稿を、本細則にしたがい日本経営システム学会誌の形式に編集する。
3. 学会誌編集委員会は校正刷りを著者に送付する。著者は校正刷りを確認後、学会誌編集委員会に返送する。
4. 学会誌編集委員会は著者校正の終了した原稿を責任校正し、これを出版原稿とする。

(掲載料および別刷代)

第 12 条 日本経営システム学会誌への掲載に当たっては、著者は別表の掲載料金を支払うものとする。

2. 著者が 6 頁以内の最終原稿を提出した場合でも、日本経営システム学会誌の形式に編集後に 6 頁を超過した場合には、その増加分の掲載料金を請求するものとする。
3. 別刷を希望する著者は、別表の別刷料金を支払うものとする。

(細則の変更)

第 13 条 本細則の変更は、理事会において出席者の 2 分の 1 以上の承認を得なければならない。

2. 本細則の内容および変更の検討は、編集委員会が執り行う。

(施行)

第 14 条 本細則は平成 25 年 12 月 7 日より施行する。

(別 表)

原著掲載料金表

原 著 頁 数	掲 載 料 金
6 頁以内の場合	15,000 円
6 頁超の場合	15,000 円 + 超過料金*

* 超過料金：超過頁数×15,000 円

別刷料金表**

別 刷 部 数	別 刷 代
100 部	10,000 円

** 希望者のみ